



第十五回

文化庁メディア芸術祭

PRESS RELEASE

2011.07.08

15th Japan Media Arts Festival

平成23年度

## 第15回 文化庁メディア芸術祭 作品募集開始

募集期間：2011年7月15日(金)～9月22日(木)

メディア芸術の創造と、その発展を図ることを目的に、平成9年度(1997年)に産声を上げた「文化庁メディア芸術祭」も今年で第15回目を迎えます。

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門で世界中から作品を募集し、優れた作品に文化庁メディア芸術祭大賞他、数々の賞を贈呈するとともに、作品を展示いたします。

昨年度は国内1,951作品、海外694作品(48カ国・地域)の合計2,645作品の応募があり、受賞作品展の来場者数は7万人を超え、国内外ともに注目されるフェスティバルへと成長してまいりました。

このたびは、「平成23年度 第15回 文化庁メディア芸術祭」の募集期間が決定しましたのでご案内申し上げます。

募集期間は2011年7月15日(金)～9月22日(木)までとし、その後審査を経て2012年2月22日(水)～3月4日(日)に国立新美術館で受賞作品展を開催する予定です。

また、「文化庁メディア芸術祭」は我が国のメディア芸術の海外への発信力の強化のため、毎年海外で展覧会を実施しております。今年は「日独交流150周年」の年であるためドイツにおいて「文化庁メディア芸術祭 ドルトムント展2011」と題し、9月9日(金)～10月2日(日)まで、文化複合施設・ドルトムントUにて開催いたします。

詳細は決定次第ご案内申し上げます。

「文化庁メディア芸術祭」募集について、是非御社媒体にてご紹介くださるようご検討のほどをよろしくご願いたします。

お問合せ

プレスリリースに関するお問い合わせ／平、大西

事務局広報／望月、金上

文化庁メディア芸術祭事務局 [(財)NHKインターナショナル 内]

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町7-13 第二共同ビル

TEL 03-6415-8500 FAX 03-6415-8502

e-mail: jmaf-press@nhkint.or.jp

 **NHK INTERNATIONAL, INC.**

## 募集概要

- 名称 平成23年度[第15回]文化庁メディア芸術祭  
15th Japan Media Arts Festival

- 募集期間 平成23年7月15日(金)～9月22日(木)必着

- 募集部門 4部門 (アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ)

アート部門 コンピュータその他の電子機器等を利用したアート作品

インタラクティブアート、メディアインスタレーション、映像作品、デジタルフォト、グラフィックアート、ウェブを使った作品 など

エンターテインメント部門 コンピュータその他の電子機器等を利用したエンターテインメント作品

ゲーム(ウェブゲーム、ソーシャルゲームなどを含む)、映像作品(ミュージックビデオ、広告映像、コンピュータによる特殊映像効果・表現など)、遊具(フィギュアなどを含む)、キャラクター、ウェブを使った作品(広告などを含む)、アプリケーション・ソフトウェア など

アニメーション部門

劇場公開アニメーション、テレビアニメーション、オリジナルビデオアニメーション(OVA)、短編アニメーション など

マンガ部門

単行本で発行されたマンガ、雑誌などに掲載されたマンガ(連載中の作品を含む)、自主制作・同人誌などで発表されたマンガ、ウェブで発表されたマンガ(PC、Mobileなどを含む) など

- 各賞

高い芸術性と創造性を基準として、部門ごとに大賞1作品、優秀賞4作品、新人賞3作品を選定します。

また、審査委員会の推薦により、メディア芸術の分野において貢献のあった方に対して、功労賞を贈呈します。

<大賞> 賞状(文部科学大臣賞)、トロフィー、副賞60万円

<優秀賞> 賞状(文部科学大臣賞)、トロフィー、副賞30万円

<新人賞> 賞状(文部科学大臣賞)、トロフィー、副賞20万円

<功労賞> 賞状(文部科学大臣賞)、トロフィー

ほかにも優れた作品に対して審査委員会推薦作品を選定し、受賞作品とともに国内外のメディア芸術関連フェスティバルや国際映像祭などで展示・上映することがあります。

- 作品推薦

エントリーサイトにて優秀作品の情報を募っています。

<http://bunka-jmaf.jp/>

推薦期間:平成23年7月15日(金)～8月19日(金)

■ 審査／審査結果発表

平成23年10月～11月 審査

平成23年12月 審査結果発表

■ 贈呈式

平成24年2月21日(火) 東京ミッドタウン

■ 受賞作品展

平成24年2月22日(水)～3月4日(日) 国立新美術館

■ 文化庁メディア芸術祭 とは

メディア芸術の創造とその発展を図ることを目的とし、平成9年度(1997年)から「文化庁メディア芸術祭」を毎年開催しています。「文化庁メディア芸術祭」は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガなど、優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、これを鑑賞する機会を提供するもので、具体的には、各賞の受賞発表、贈呈式、受賞作品展を実施しています。

また、その他にも国内外のメディア芸術関連のアートフェスティバルやアニメーション映画祭などに参加・出展し、文化庁メディア芸術祭やその受賞作品などを紹介しています。平成22年度は、国内では広島国際アニメーションフェスティバルや沖縄映像祭、札幌国際短編映像祭など、17のイベントに、海外ではJAPAN EXPO(フランス)、ISEA(ドイツ)、Ars Electronica(オーストリア)など、23のイベントに参加しました。

## 文化庁メディア芸術祭実行委員会

### ■ 会長

近藤 誠一（文化庁長官）

### ■ 運営委員

建畠 哲（京都市立芸術大学長）  
浜野 保樹（東京大学大学院教授）  
林田 英樹（国立新美術館長）

### ■ 審査委員

#### □ アート部門

岡崎 乾二郎（近畿大学国際人文科学研究所教授）  
神谷 幸江（広島市現代美術館学芸担当課長）  
後藤 繁雄（京都造形芸術大学教授）  
関口 敦仁（情報科学芸術大学院大学(IAMAS)学長）  
原 研哉（デザイナー）

#### □ エンターテインメント部門

伊藤 ガビン（編集者／クリエイティブディレクター）  
岩谷 徹（東京工芸大学ゲーム学科教授）  
内山 光司（クリエイティブディレクター）  
斎藤 由多加（ゲームデザイナー）  
寺井 弘典（クリエイティブディレクター）

#### □ アニメーション部門

伊藤 有孝（アニメーションディレクター）  
押井 守（映画監督）  
杉井 ギサブロー（アニメーション監督）  
氷川 竜介（アニメ評論家）  
古川 タク（アニメーション作家）

#### □ マンガ部門

さいとう ちほ（マンガ家）  
竹宮 恵子（マンガ家／京都精華大学教授）  
細萱 敦（東京工芸大学准教授）  
みなもと 太郎（マンガ家）  
村上 知彦（神戸松蔭女子学院大学教授）

## 前年度実績

### ■ 前年度の応募内訳

応募作品数:2,645作品

アート部門:1,101作品 / エンターテインメント部門:669作品 / アニメーション部門:425作品 / マンガ部門:450作品

### ■ 海外からの応募

48ヶ国・地域/694作品

アイルランド共和国、アメリカ、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インドネシア、ウクライナ、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、韓国、ギリシア、クロアチア、コロンビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スロベニア、セルビア、タイ、台湾、チェコ、中国、ドイツ、ドミニカ共和国、トルコ、ニュージーランド、ネパール、ノルウェー、ハンガリー、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、モンゴル、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルグ、ロシア(五十音順)

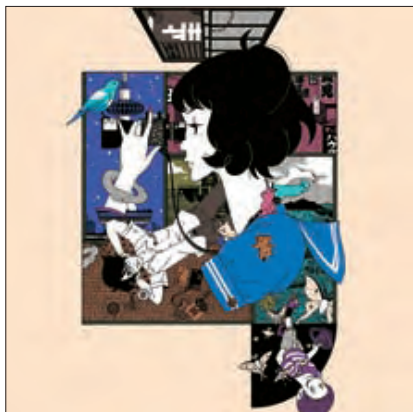
### ■ 前年度 大賞受賞作品



アート部門 大賞  
『Cycloid-E』  
Michel DÉCOSTERD / André DÉCOSTERD (Cod.Act)



エンターテインメント部門 大賞  
『IS Parade』  
林 智彦/千房 けん輔/小山 智彦

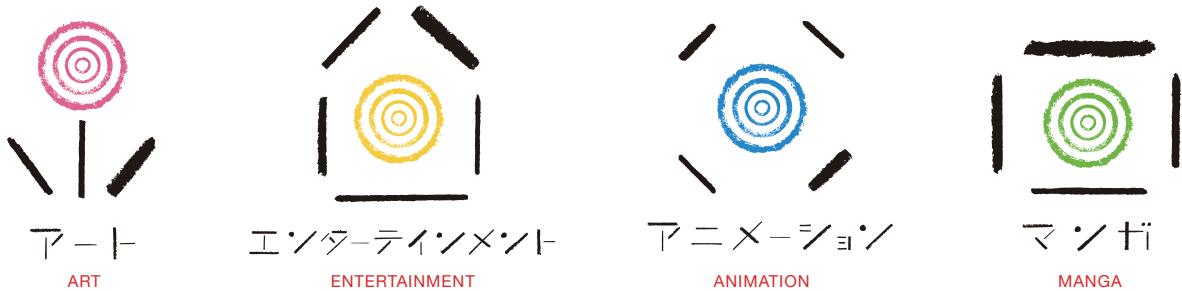


アニメーション部門 大賞  
『四畳半神話大系』  
湯浅 政明



マンガ部門 大賞  
『ヒストリエ』  
岩明 均

## 第15回 文化庁メディア芸術祭 アートディレクター決定！



第15回 文化庁メディア芸術祭 のアートディレクターは  
佐藤直樹さん[ASYL(アジール)]+大原大次郎さんに決定いたしました。

### ■ コメント

これまでの蓄積を踏まえながらも、時代の大きな転換期に相応しい、新しい価値創出の場として、文化庁メディア芸術祭も、新しいステージへと踏み込んで行くのだと思います。重要な歴史的場面に立ち会っていることを深く自覚し、耳を澄まし、目を凝らし、未来の人たちからしっかり評価されるよう、様々な価値を総点検しなければならないと考えます。芸術祭に関わるデザインそのものが、内容と同期しつつ、時代を画する新しい価値提示のフレームになっているかどうか、そこを問いながら取り組んで行くつもりです。

佐藤直樹

今回佐藤直樹さんと共に挑むビジュアルアイデンティティの領域は、自立した意匠を作り出すのではなく、誰か(なにか)を触媒として光合成するような律動的な線を、「発芽」させる作業だと思っています。発芽した奔放な線や制御のしにくい形態は、デザイナーではなくむしろ受け手側がリデザインしていく余地を含んだリソースであり、現在進行形の多レイヤーに及ぶ時間軸や感情を捉えるための「補助線」になると考えています。

大原大次郎

### ■ プロフィール

#### 佐藤直樹 / アートディレクター

1961年東京生まれ。北海道教育大学卒業後、信州大学で教育社会学・言語社会学を学ぶ。美学校菊畑茂久馬絵画教場修了。1994年『WIRED』日本版アートディレクター就任。1998年「アジール・デザイン」を設立し幅広いジャンルのデザインに取り組んできた。国内外で受賞多数。

現在、ASYL(アジール)代表、多摩美術大学准教授、3331デザインディレクター。

#### 大原大次郎 / グラフィックデザイナー

1978年神奈川県生まれ。武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業後、2003年独立。DIY性の高いタイポグラフィを基軸としたデザインワークや映像制作を中心に、文字のZINEシリーズ『MOZINE』の発行、フィールドワーク「文字採集」、展覧会、ワークショップなど、自発的なデザイン活動を展開している。